

世界一周最小ヨット

田尻町の青木洋さん(53)が一九七四年、単独世界一周航海を達成した後、吹田市の万博記念公園内に展示されていたヨット「信天翁二世号」の修復工事が終わり、九日、同公園で記念式典が開かれた。当時の輝きを取り戻すため募金活動に奔走した若者の一人は今年八月、太平洋横断に挑戦するといいい、参加した青木さんは「あほなことやめろ」と周囲に笑われたので名付けた。そのヨットが今も若者を勇気づけていると思うと、「うれしい」と声を弾ませた。

あほうどり輝き戻った

艇は青木さんの手作りで全長六・四メートル、一・五メートル。ギネスブックに世界一周最小艇と記録されている。七五年、日本万国博覧会記念協会が寄贈を受け、園内の夢の池南岸に展示。風雨にさらされて塗装がはげ落

万博記念公園 修復終えお披露目

ち、腐食も激しかった。昨年七月、白と赤二色の美しい姿をよみがえらせようと、ヨット愛好家らが「あほうどりの会」(中村茂夫会長、約二百二十人)を結成。ホームページでカンパを募り、約五百万円の費用のうち約百五十万円を集めた。残り同協会と青木さんが負担し、十二月から作業に取りかかっていた。この日の式典には約二十人が参加。同会のメンバーで、今年八月、青木さんが使った測定器「六分儀」を譲り受けて太平洋横断に挑む京都市中京区の同志社大四年友田亨助さん(26)は「青木さんが通ったルートの一部を冒険できるのが楽しみ」と力強く話していた。



化粧直しされたヨットの前で友田さん(右)を激励する青木さん(吹田市の万博記念公園で)

大阪